

Title	衰退期に於ける積極的戦略行動に関する一考察
Sub Title	
Author	大畑達也(Oohata, Tatsuya) 滝沢茂
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1987
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1987年度経営学 第532号 複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001987-0532

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学生氏名 大畑達也

主査 滝沢 茂

副査 片岡 一郎

所属ゼミナール 滝沢 茂 研

青井 倫 一

衰退期に於ける積極的戦略行動に関する一考察

近年に於ける経営環境は、プロダクト・ライフ・サイクル(以下PLC)の短命化をもたらし、かつ、技術開発費用の増大の割に差別化が困難と言う理由で、ROIを低めつつあるのが現状である。以上のことは、これまでの様に成長期、成熟期に於いて十分な利益を稼いでいた時代とは異なり、一度市場導入した製品から、出来るだけ多くのキャッシュをミルクするという意味に於いて、衰退期の重要性を以前に比べ相対的に高めるものである。

そこで当研究は、過去に於いて比較的軽視されてきたテーマであるPLCの衰退期にスポットをあて、K.R.Harriganの論文である“Strategic for Declining Industries”に於ける問題点—衰退期に入ってから衰退期の戦略を考えようとしていること。衰退期に於ける明確な定義が成されていないこと。—を検討し、最後に、かつては衰退期に於ける唯一の戦略とされていた“刈り取り戦略”とは、対照的である衰退期に於けるリーダーシップ戦略の可能性と具体策を検討したものである。但し、衰退期をもたらす原因には技術革新、消費者ニーズの変化……等が考えられるが、これらを一概に論じる困難さから、当論文に於いては技術革新がその原因である場合に限定して論じた。